

科目名		建築施工 I			
担当教員		渡部 和久		実務授業の有無	○
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期 後期
必修・選択		必修	単位数		時間数 32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。 4. 建築の基本となる構造躯体の主たる構造、鉄筋コンクリート工事の分野を学ぶ			
学習目標 (到達目標)		ここではその種類の施工方法や製品管理の仕方、材料の種類など詳しく学び、それが理解できる様になる。工事方法を通じ建築に必要な専門用語も習得していく。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築施工(市ヶ谷出版社)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	基礎地業工事 (地業工事・基礎工事) ①地業工事の種類 ②杭工事の工法の種類や工事方法、③基礎の種類や構造、役目			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	鉄筋コンクリート工事 (鉄筋コンクリートの概要) ①鉄筋コンクリートの構成、種類、施工手順			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	鉄筋コンクリート工事 (鉄筋工事) ①鉄筋コンクリートにおける鉄筋の役割と重要性、 ②鉄筋の施工前検討や組み立て方法 ③製品検査について			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	鉄筋コンクリート工事 (鉄筋工事) ①鉄筋の継手、定着、かぶり厚さの意味 ②確認問題			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	小テスト			項目1～4 から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。	
6	鉄筋コンクリート工事 (型枠工事) ①型枠の役割と構成、加工・組立 型枠の解体計画・存置期間・検査の方法 ③確認問題			②	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習
7	鉄筋コンクリート工事 (コンクリート工事) ①コンクリートの概要と性質、打設のプロセス ②確認問題			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8	小テスト			項目6～7から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。	
9	鉄骨工事 (工場作業) ①鉄骨造の基礎部分のアンカーセットの工法や工程 ②材料の種類、ボルトの種類、 ③加工図、現寸検査などの役割 ④溶接方法 ⑤検査部材の製品検査の方法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
10	鉄骨工事 (現場作業) ①鉄骨の建て方の工程 ②アンカーボルト、高力ボルトの役目 ③耐火被覆との密着性			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点 10 %	小テスト 20 %	期末テスト 70 %	%	施工は建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		一級建築士として建築現場監督業務を約10年携わる			